



終わり良ければ全てよし！

「終わり良ければ全てよし！」とは、今日の13Rのためにあるみたいな言葉である。

*

最終種目、つまり、日比谷の体育大会一番のメインイベントであるクラス対抗リレー決勝は、各学年上位4クラスで争われるわけだから、当然のことながらどの学年も接戦となる。だから、13Rもさすがに「圧勝」とはいかなかったが、第一走の●●が圧倒的な速さでトップにたつと、第二走の●●から第三走の●●にバトンタッチする際一瞬抜かれたが、すぐに●●がトップを奪い返して、あとは●●、●●、●●、●●、●●と危なげなくバトンをつなぎ、トップを維持したままのゴールであった。いや～、気持ちよかった。

もちろん、トラックを駆け抜けた選手諸君が大活躍した訳だが、クラスみんなが一体となって送り続けた大きな声援が、選手一人一人の背中を押し続けたことは間違いない。本当に立派な結果であったと思う。

*

朝練を繰り返した「白線流し」と「五人六脚」は、思うような成果があがらずちょっと残念だったかも知れない。「白線流し」は、1年生と比べると3年生は落下する回数がずっと少なく、さすが～といった感じであった。男子諸君は、来年も再来年もこの種目に挑戦することになるはずだから、今回の経験をぜひ次のクラスで生かしてほしい。「五人六脚」は、足を実際に結んだ実地練習を、もう少し重ねたいところだったかも知れないね。

一方、4月の自己紹介の時に「運動は×です」と言っていた諸君が多かったにも関わらず、作戦を練って臨んだクラス全員リレーで

は、それぞれが作戦をしっかりと実行し、つなぐバトンに思いを込めて3位をゲットすることができた。これまた立派である。

*

クラスTシャツも、遠くから見ても「13」の数字がくっきりと浮かびあがるし、背中上部のピンクラインもとてもオシャレで素敵だと思う。ちなみに、前のマトリクスにはどんな意味があるのだろうか？

閉会式で順位が発表になる時は、最後のリレーが優勝だったから、3位でもなく、2位でもないと分かった時は、きっと君たちも「1位」を期待したのではなかろうか。私は君たちの背中にピントを合わせて発表の瞬間を待っていたのだが、残念ながら別のクラスであった。もちろん、他種目の結果を考えれば、3位でなかった段階で4位を連想すべきなのだろうが、1位を連想するところが「クラス」というものの素晴らしさなのだろう。

*

閉会式の後でクラスで集まった時に、●●さんが「今回は賞を逃したから、次は合唱祭でね！」と言った時、これまた「終わり良ければ全てよし！」だなあと思った。閉会式の挨拶で副校長先生が「クラスの連帯が深まったことでしょう」とおっしゃっていたが、その深まりが、13Rでは●●さんのこの言葉によく表れていると感じたからである。明日は合唱の朝練をしようと言いつつ出るので、勉強（居眠りを？）心配した担任は、「明日は朝練はいいんじゃないの？」と日和ったが、今日のこの思いを、ぜひ次の行事やこれからの学習に結びつけてほしい。